

受講ノート 2014 From 藤由美の Facebook
アンドレア師のキリスト教美術史講座
In 船橋学習センター「ガララヤ」

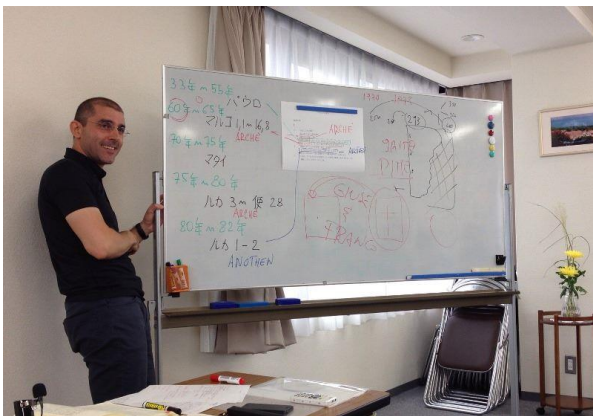
2014. 9. 24

今日（9/24）は、船橋学習センターでのアンドレア・レンボ師の「福音とイコンの世界」の講座を受講してきました。

今日の講座は、イコンの内容に入る前の導入部で、現在刊行の新約聖書がたくさん写本からどのように編纂されたか、研究者の視点からの歴史がまず紹介され、3つの共観福音書のイエスの活動の始まりから受難・復活の叙述が、複数の体験者の見聞により実証的であること、それに対して、イエスの活動以前の物語＝ルカ伝1～2章を、どのように真実と理解するのか、という内容でした。

ギリシャ語の始まりを意味する ARCHE と、それ以前？の ANOTHEN。

神学というより哲学的、ひさびさに知的好奇心がわいてきて、あっという間の楽しい1時間半でした。



2014. 10. 8

今日（10/8）は、午前中、船橋学習センターで、イコンについての講座を受講、⇒午後は、11/5に私が案内役を仰せつかっている史跡見学会「上小岩遺跡から柴又へ」コース下見、⇒夜は、船橋で晩酌後、飛ノ台史跡公園博物館の「縄文大学」を受講し、皆既月食を時折眺めながら 9:15 頃帰宅しました。

午前中のアンドレア・レンボ 師のイコンについての今回の講座は、イコンとはなにか始まり、4世紀から伝わる伝統的なイコンの形式とその意味について、詳しく説明していただき、図像学の真髓を味わうことができました。

隔週水曜日、開催されるこの講座、キリスト教美術史に興味のある方にはぜひお勧めしたい内容です。

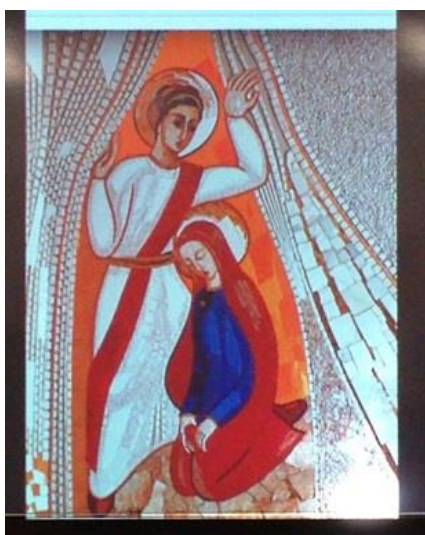


2014. 10. 22

今日（10/22）は、一日中冷たい雨でしたね。

午前中、アンドレア・レンボ 師の「ルカによる福音とイコン」の連続講座受講のため船橋学習センターへ行きました。

受胎告知から始まる新約の世界、そこには旧約聖書からの深い意味が隠されているとのこと、聖画に書かれたシンボル、たとえば受胎告知の絵のマリアの持つ赤い毛糸の意味など、興味深いお話でした。



2014. 11. 22

今日（11/12）は、船橋学習センター「ガリラヤ」でのアンドレア・レンボ 師の「ルカの福音とイコン」の講座の4回目を受講しました。

受胎告知の次の場面、マリアのエリサベト訪問の場面について、ルカ福音書 1:39-56 と、正教会の伝統的なイコンに込められた深い意味についてお聴きしました。

二人の女性とその胎内の子の出会いという旧約から新約へ橋渡しする重要な場面を、ルカは、何気ない日常のドラマとして記述していること、そして有名な祈りのマニフィカト（マリアの賛歌「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえ・・・」）に旧約の大事なフレーズが数多く引用されていることなど、豊かな内容の講座に深く感銘しました。





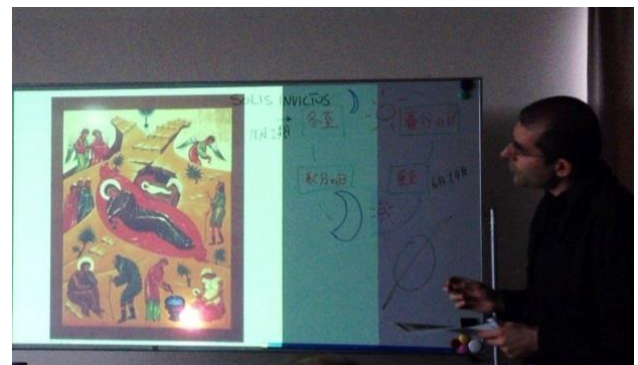
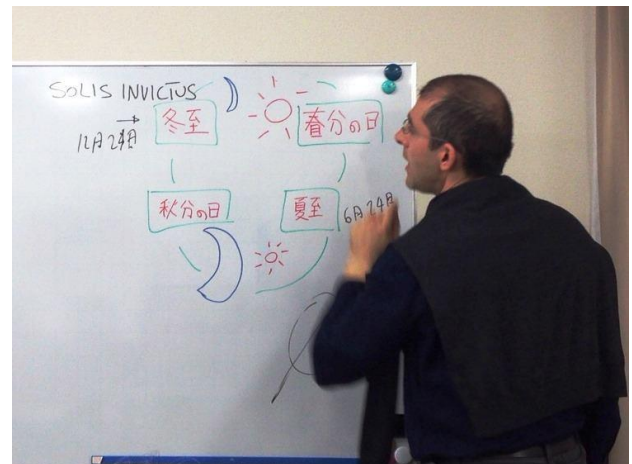
2014. 11. 26

今日は、昨日からの雨が止まず、さらに風が出てきて、寒い一日でした。

午前中、船橋学習センターガリラヤへ。
アンドレア・レンボ 師の、ルカ伝によるイコンの連続講座も、イエスの誕生の項に入りました。

住民登録のためにヨゼフの先祖の町ベツレヘムへ赴き、そこでイエスが生まれたとの記述は、皇帝アウグストゥスの紀元前 8 年の 2 回目の住民登録令後の BC6 年ごろ。

降誕祭として 12 月 24 日の夜に祝われるようになったのは、ローマ帝国時代数世紀の頃で、光の復活である冬至の日、そして春分の日が受胎告知の日とされたそうです。



今日のイエスの誕生を表すオーソドックス教会のイコン (No. 3) は、ルネッサンス絵画やプレセピオを見慣れた私にはちょっとショックでした。

天使と旅の途中の三賢人、羊飼いはまあまあとして、嬰兒のイエスは、闇の洞窟内に、布にくるま

れて棺桶のような「飼い葉桶」に入れられ、マリアは「すべて心に納めて、思いを巡らし」、ヨゼフは戸惑い悩んでいます。

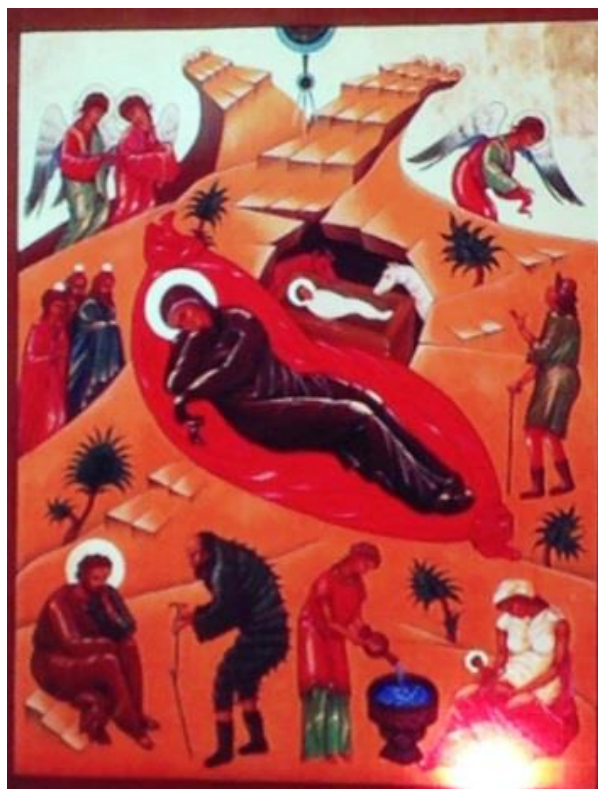
洞窟・包布・棺は、イエスの埋葬のイメージ。左下にわが子かと悩むヨゼフに悪魔が囁き、右では、産湯の場面。飼い葉桶を覗くのはイザヤの予言に登場する牛（イスラエルの正しい民）とロバ（真理を求める異邦人）だそうです。

この一見暗いイコンは、神が人となった奇跡と、十字架で死んで葬られ、そして復活する救世主の降誕の深い意味を表していると、感じました。

最後に、現代の宗教画のイエスの誕生（No. 5）、アットホームな雰囲気の中に幼子イエスと「み言葉」（ヨハネの福音）が描かれています。最近のドイツの修道士の作品だそうです。



No. 3



これは Wikipedia に載っていたイコンでヨハネと産湯の場が左右逆ですが、儀軌の通りですね。



No. 5



2014. 12. 11

昨日（12/10）は、アンドレア・レンボ 師のルカ伝とイコンの 5 回講座の最終日で、船橋学習センター「ガリラヤ」へ。

テーマは、ルカによる福音書 2:25～35 の幼子イエスの初参りを迎え、幼な子を抱き、神をほめたたえて述べたシメオンの言葉についてでした。（シメオンは、黒田如水の洗礼名）

「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりこの僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救を見たのですから。・・・」

アンドレア師の解説では、シメオン＝ルカ。ルカは他の福音書と同じように、第 3 章のヨハネによる主の洗礼から書き始め、続けて使徒言行録を書き、最後にイエス出生の第 1～2 章を独自に書き記した、シメオンの言葉は、ルカが福音の最後に記した自らの信仰表明にほかならないとのことでした。

「幼子を迎えるシメオン」の伝統的なイコンの説明のあとに、カラヴァッジョの「ロレートの聖母」の絵を紹介され、汚い姿の巡礼者に現れた聖母子を描くこの絵は、当時（17 世紀初頭）不敬だと騒ぎになった絵ですが、「日常性の中にこそ神はおられる」ということの表現でカラヴァッジョは天才的であり、教えの真髓についているとのことでした。

